

I 対話活動を楽しむ生徒を育てるために本校で常設的に実践している活動

1 Q → A → A → Q (ネタが尽きるまで、何分でも英語で話し続けられる生徒を育てたい！)

生徒に突然、「3分間英語だけで話し続けてみなさい。」と言ったら、どんな反応が返ってくるでしょうか？英語が苦手な生徒にとってはおそらく、「そんなの無理！」と感じてしまうのではないかでしょうか。どの子でも英語で対話を継続させていくことができるようになります。そのためには、対話を進めていく手順を知ることが必要です。そこで、本校では質問に答えた後は、必ずもう1文つけ加え、さらに最後は必ず質問して終わるという手順を踏ませるようにしています。

Qに対して、A→A→Qで終わる。こうすると、ネタが切れるまで対話をいつまでも続けていけるようになります。本校では3分間で実施しています。この活動は、1年生でも取り組むことができます。

～1年生で初めて取り組ませた時の実践例～

- 最初のQは教師が与えます（これは毎回教師が与えています）。例えば、"Do you like natto?"でスタートとしなさい、と指示します。すると、子ども達は次のように対話を進めることができました。

Q
↓
A
↓
A
↓
Q
↓
A
↓
Q
⋮
⋮

S1: Do you like natto?
S2: No, I don't.
S2: But I like tofu.
S2: Do you like tofu?
S1: Yes, I do.
S1: I eat tofu every day!
S1: Do you like yu-dofu, too?
⋮
⋮



3年生の
対話の様子

制限時間3分間で、62文対話した1年生のペアがありました。

- 上級生になるにつれて、QではWh-Questionをたくさん使うように指導しています。

★1年生の振り返りシートより

今日はいい、はい、英語を話す
ことが多くてよかったです。次や
るときは、ぜひまたやりたい。

今日は、会話をしました。
うな話をしました。回数は少しだ
けだけれど、内容はやべかったです。

かいわがたくさんでき
ました。(英語で)やりました。

～発話回数を数えさせるための一工夫～



○おはじきを利用して、対話に集中したままカウント！

Q→A→A→Qでは、3分間で何回発話できたか、回数にこだわって取り組ませています。そこで、対話が終わった後、回数を記録させています。しかし、「正」の字を書いたり、指を折ったりして回数を数えていると、対話に集中できなかったり、回数を正確に数えることができなかったりします。そこで、ペアにおはじきが入ったケースを1つずつ配り、1文発話ごとにおはじきを1つ取っていくようにさせています。こうすることで、対話活動に集中することができ、かつ、正確に回数を把握することができます。ただし、活動終了後はすみやかにおはじきを回収することが必要です。

おはじきを取りながら対話を進めている様子→



2 J-Eカード (対話場面でさまざまな表現が使える生徒を育てたい!)

No.	Japanese	English	①	②	③	④	⑤
1	全くその通りです。	You are quite right.	○	○	○	○	○
2	説明して下さい。	Please explain it to me.	×	×	○	○	○
3	なぜなのか言って。	Please tell me why.	×	×	○	○	○
4	どうしてそうなったの?	Why did it happen?	×	×	○	○	○
5	どう思う?	What do you think?	○	○	○	○	○
6	あなたの意見は?	What's your opinion?	×	×	○	○	○
7	これはどう?	How about this?	×	○	○	○	○
8	はっきり分かった?	Is that clear?	○	○	○	○	○
9	分かった?	Do you understand?	○	○	○	○	○

○対話場面で活用させたい表現を

J-E カードで練習

日常生活に近い場面を想定してコミュニケーション活動を行うとき、文法の習得や語彙、表現の暗記だけでは対話は成立しにくく、特に1年生ではコミュニケーション方略についての指導が大切になります。分からぬことについて不理解を表明したり、聞き返すなどができるよう、これらの表現を練習しました。それまで、相手の言うことが分からないと、分からぬ自分が悪いのだ、と対話の継続をあきらめてしまう生徒が多かったのですが、

これにより、少しでも相手の意図をくみ取ろうとする姿勢が育ってきました。また、対話活動そのもので必要となる表現も練習に取り入れています。これにより、日々の対話活動でよくある「ジャンケンによる順番決め」なども、英語で表現することができるようになりました。

ただ、J-E カードでやみくもにインプットさせようとしても、生徒はすぐに忘れてしまいます。普段の授業の中で、教師が積極的に英語を話すことで、生徒に積極的に英語を使わせる機会を保障することが大切だと考えます。また、ある程度まとまった対話活動をおこなう前に練習しておくと、生徒は積極的に表現を用いることができ、効果的だと考えます。

「説明してください。」



3 Active Listening (発話された内容に関して、Follow-Up Questionsが問える生徒を育てたい!)

interactive な対話活動を行う上で重要なのは、「聞き手の対話への積極的な参加」です。これまでの対話活動で課題としてあげられたのが、「J-E Card の表現などを用いて関わることはできるが、内容に関する質問があまりできなかつた」と答えた生徒が多かったことです。

そこで、対話活動を通してより相互理解を深めることができるようにするために、内容に関する質問に慣れさせていく必要があると考えました。本校では、静岡大学教育学部英語教育科の三浦孝教授（「だから英語は教育なんだ」, 2002 [p138 "Feedback Observation" の項]）の研究を参考に、対話活動を楽しむ生徒を育てるための常設的活動として実践してきました。教師があらかじめ用意しておいた小話を話し、生徒はその内容に関してできるだけたくさん質問するようにします。そして、何回質問できたかを記録して、競うようにさせました。これにより、Wh-Questions で質問することに慣れた生徒が増えてきました。

～教師との対話を楽しくする一工夫～



左のサイコロは、Active Listening で使った物です。サイコロを振って、[A] の目が出たら、教師は生徒に質問を投げかけ、生徒に答えさせます。[Q (Do)] が出たら、教師に Do you ~? で質問し、[Q (Wh)] が出たら、生徒は Wh-Question を用いて教師に質問しなければなりません。何が出るか分からないので、ドキドキしながら対話活動をおこなうことができます。

4 Description (伝わらない語を他の単語で説明できる生徒を育てたい!)

【Sheet A】

Goal: 相手から「ピンセット」をもらいたい。ただし、「ピンセット」は英語では、「**tweezer**トゥイーザー」と言います。「ピンセット」という語を**絶対に使わずに**どうにかしましょう。

*わたしに～をください = Give me your ~.

*日本語の使用はいかなることがあっても禁止!

【Sheet B】

Goal: 相手があるものを欲しがっています。何を欲しいのかしっかりと聞き出して、正しいカードを渡しなさい。対話中、あなたのカードを相手に見せることはできません。
(渡すチャンスは1度だけです)

トゥイーザー

分かった語句 **tweezer** = **ピンセット**

*日本語の使用はいかなることがあっても禁止!



Description は、ペアによる活動です。生徒Aの方は、【Sheet A】にあるように、"tweezer"を相手からもらうために、それが何であるのかを伝えなければなりません。生徒Bの方は、【Sheet B】にあるように、相手の欲しがっているものを理解しなければなりません。しかし、ジェスチャーで表してもよく分からぬものが用意されている上に、言葉だけで正確に物事を説明し、理解してもらうのは、中学生にとって負担が大きすぎてしまいます。

そこで、生徒Bには、【Sheet B】に加え、左にある4つの写真も配りました。これにより、相手が欲しがっているものがこれら4つのうちの1つであると絞り込むことができます。また、生徒Bの方からも、有益な情報を引き出す質問をすることができました。生徒Bは、最後に「絶対これだ！」と自信を持てたところで**一枚だけカードを渡すことができます**。

一度しか渡すチャンスがないことで、相手の言いたいことを確実に理解しようと努力する姿が見られました。

これは、第2回目として行ったDescriptionです。

【Sheet A】

Goal: 相手から「がびょう」をもらいたい。ただし、「がびょう」は英語では、「**thumbtack**サムタック」と言います。「がびょう」という語を**絶対に使わずに**どうにかしましょう。
(近くにあっても実物を見せない)

*わたしに～をください = Give me your ~.

*日本語の使用はいかなることがあっても禁止!

ここでは、'When / Where / Who / What / How'をキーワードとしてあげ、物が何であるか(What)を説明したいときには、それ以外の(When / Where / Who / How)を使って説明したり尋ねたりするとよい、とアドバイスしました。

【Sheet A】

Goal: 相手に「コンセント」が必要だと言いたい。ただし、「コンセント」は英語では、「**outlet**アウトレット」と言います。「コンセント」という語を**絶対に使わずに**どうにかしましょう。
(近くにあっても実物を見せない)

*わたしは～が必要です =I need a(an) ~.

*日本語の使用はいかなることがあっても禁止!

第3回目では、"I need an outlet."と一方の生徒が言ったとたんに左上の絵(御殿場のアウトレット)を渡しそうになってしまう人が何人かいきました。ジェスチャーで伝えようとすると、[包丁]と勘違いしてしまう人がいるなど、必死で伝える姿、分かろうと逆に質問をする姿などが見られました。



Ⅱ これまでに実践してきた活動(常設的活動として)

～教科書シラバスからインタラクティブな活動へのブリッジング～

日常生活の中で英語を使用する機会がほとんどない生徒にとって、英語学習に意義を見いださせるためには、教科書中心の学習だけでは不十分である。現在学校教育の中で主流となっているのは Type A シラバス(言語は、その構成要素をいくつかの部分に分割し、それを一つ一つ積み上げてゆくことで最も効果的に習得できるとする立場)である。Type A シラバスには、「今日何を学ぶのかがはっきりしている」メリットもあるのだが、これだけでは、実際の言語使用場面で creative に臨機応変に対応する力が育たないという欠点が指摘されている。(Syllabus and Materials by Dave Willis 2000, p.27. CELS, University of Birmingham)

そこで、Type A シラバスと Type B シラバス(言語は、実際の言語交渉、つまり言語を意味ある場面で相互に使用することを通じて、最も効果的に習得できるとする)の併用である統合的な学習活動を取り入れた単元の工夫を行った。

具体的には、

- ①教科書シラバスの上に、生徒にとって魅力的な統合的学習活動を配置することで、学習を意味づける。
- ②統合的学習活動を成功させるために、その期間の学習項目（単語、文法、語法、発音などの言語事項や言語機能）を駆使することで、それらの知識を統合し、目的をもって有機的に使えるようにする。

以上のことから、単元構成を工夫してきた。

※Type AシラバスとType Bシラバスの併用とは

両シラバスの相補的関係は、家庭科の「食物」の授業に典型的に見ることができる。Type A シラバスは、「第1回=栄養素、第2回=食品の安全と衛生管理、第3回=調味料の各種、第4回=食材の刻み方」などといった、断片化された知識の配列である。Type B シラバスは、「4月=みそ汁を作ろう、5月=チャーハンを作ろう、6月=八宝菜を作ろう」などといった、イベントなりタスクの配列である。Type B シラバスで、魅力的な学習活動を適所に配列し、それに向けて準備する形で必要な知識を Type A 的に与えてゆくことが、両シラバスの併用ということになる。

しかし、単元のまとめとして大きなイベントとも言える統合的学習活動を設定しても、教科書だけを扱っていたのでは、生徒は思うようにコミュニケーション活動に取り組むことが出来ないのではないかと考えた。それは、

- ①英語だけでコミュニケーション活動を運営するためには、その運営に必要な表現をお互いに知っている必要がある。
- ②不理解を表明するなど、communication strategy に関わる部分を目頃から練習しておかなければ、対話中に困難にぶつかったときにそれを乗り越えることが出来ない。
- ③生徒が実際にコミュニケーション活動に取り組んだ後、今後の課題としてあげられた部分について重点的に練習する機会が必要である。

以上のことから、「統合的学習活動を支える活動」を設定し、授業の初めに様々なウォームアップ活動を行ってきた。

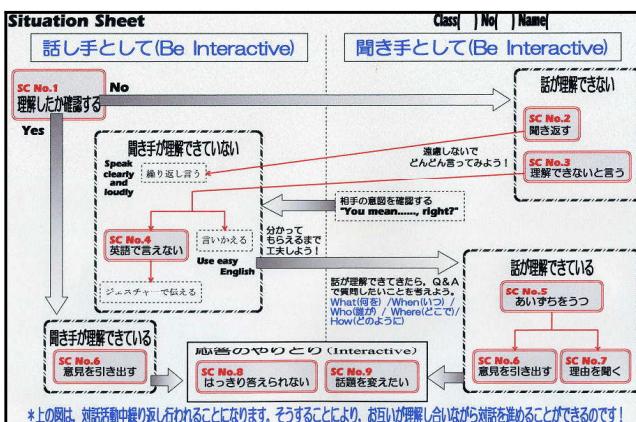
(1) Short Dialog

★対話が終わってから記入しよう！★(ここではペアに聞き直してはいけません)	
A: Are there any special events in your town?	
B: Yes, there are. We have Fujieda fireworks event.	
A: What do you think about Fujieda fireworks event?	
B: I think(hope) it is very beautiful.	
How about your town?	
A: We have Fujieda big festival.	
B: What do you think about Fujieda big festival?	
A: I think(hope) it is noisy, but very nice.	

Short Dialogのねらい

生徒は、対話を成立させるために空欄に入る言葉を考えて友達と対話をします。しかし、対話中にはメモをとってはいけないように指示をしている。これにより、分からぬ言葉や聞き逃したことはそのままにしておけず、聞き返しや不理解表明を行う練習になる。また、対話が終了したところで対話文を記入させることで、自分や友達が発話した文の、文法の正当性について振り返ることができる。

(2) Situation Practice



Situation Sheet	Class	No	Name
話し手として(Be Interactive)			
SC No.1 理解したが確認する	No		
SC No.2 聞き返す			
SC No.3 理解できないと言っ			
聞き手として(Be Interactive)			
SC No.4 説明して分かる	Yes		
SC No.5 話が理解できる			
SC No.6 意見を引き出す			
SC No.7 理由を聞く			

左図の場面で使いたい表現が、右図で表されている。例えば、左図の「聞き返す」場面には"SC No.2"と書かれている。この表現が、右図の②の欄にある。各場面の困難な状況を意図的に作り出し、それぞれの表現を練習した。

(3) Topic Talk

Topic Talk活動の概要

あるトピックについてペアで2～3分間トークをする。一方的ではなくお互いの情報を交換する活動であるため、問い合わせ表現や、新たな情報を求めたり、加えたりしなければならない。また、関連ある話題を提供し、会話を継続、活性化させる練習をおこなった。トピックについては、できるだけ生徒にとって身近で話しやすいトピックを選ぶようにした。また、発展的な取り組みとして、4人によるトピックトークもおこなった。

TOPIC TALK										
目標: 沈黙を打破する。			Evaluation							
Day	Partner	Topic	Information				A	B	C	D
			L1	L2	L3	L4	①	②	③	④
1/4 1/8	Kota Ikeda	My treasure	His treasure is his notebook computer.	B	B	B	A	Jot down.		
2/5 2/12	Seiko Ishino	My favorite thing	Her favorite thing is her dog.	B	B	B	B	Jot down.		
3/5 3/18	Mithuna Hagane	My hobby GW	He played TV game every day. He played it five hours every day.	B	A	A	A	Jot down.		
4/5 4/18	Mitsako Kagome	MUSIC the sax	She likes music. She can play the sax. She has been doing it for 2 years.	B	A	B	A	Jot down.		
5/6 5/17	Takako Tayaji	winter season	She likes winter. Because she likes to play Sledging.	B	B	B	B	Likes to sit in snow. Likes winter.		
6/6 6/12	Junior Asaka	Trip	He has been to Hokkaido twice. Hokkaido is very cold.	B	B	B	B	Jot down.		
7/7 7/15	Mitsako Kawamura	summer vacation	She is going to take part in brass band contest.	A	B	A	A	Jot down.		
8/9 8/11	Mitsako Shan	favorite season	She likes summer because we have long vacation.	A	B	A	A	Jot down.		
9/11 9/18	Hanako Owari	Amelia	He wants to go to America to eat hamburger. Large.	B	A	B	A	Jot down.		
10										

Evaluation: ①会話を続けようとした。
②多くの文の形を使おうとした。
③会話が盛り上がった。
④相手を見ながら会話をした。

III 基本的な語彙や文構造を活用する力を身につけさせるために 本校で実践している活動

1 Reproductionまでもつていく教科書指導 (教科書表現をいつでも取り出して表現できるようにしたい!)

(1) 教科書を扱う上で押されたこと

- 教科書の生言語データをしっかりと生徒の頭の中に残し、その英文やルールなどの骨組みをほとんど無意識に取り出して使用できるようになることをめざし、活動を展開する。

このために、(1)教科書本文の内容を理解させる活動、(2)教科書本文を理解させた後の活動の2段階を設けた。

(1)教科書本文の内容を理解させる活動…音声→文字という言語習得の過程を大切にし、理解しやすくすることをめざした。これにより、話す活動などの発信型の communication 活動で、文法にあまり意識を向けなくても対話に interactive に参加することができると考えた。

(2)教科書本文を理解させた後の活動…生徒が意欲的に参加できるような活動内容を設定することで、意欲的に教科書を何回も読ませることをめざした。これにより、本文の英語が頭の中に残るようになるとを考えた。

生徒が教科書に親しみをもち、継続して有効活用できるよう、以下のような実践を行った。

(2) 教科書本文指導時に行なったこと

① 教科書本文はoral introductionで(教科書は開かせない)



導入の場面では、言語習得の過程に従い、音声から導入する。用意するピクチャーカードは、本文の内容に沿ったものとなるよう、教材用 PC につけ加えて画用紙で絵を用意した。左図は、New Horizon English Course2 の Unit3,"E-pals in Asia"で導入時に用いたピクチャーカードである。新出単語については、一度口頭で導入した後、できるものについては paraphrase をしたり、示している絵を提示したりして理解を助けるようにした。

② 教科書本文のsummary(教科書は開かせない)

Cool and Lucky are (e-pals).
Cool lives in (Korea) and Lucky lives in (Thailand).
Comics are very (popular) in Korea and in Thailand.
Lucky's school have a (manga)(club).
Many people read comics.
Sea is 17 and she lives in (China).
The word manga comes (from) the Japanese language.
Hong Kong hosted the (fourth) Asian Manga Summit.
Many people talk (about) manga culture.
Manga (tells) us about (different) cultures.

教科書本文の summary の一部を空欄にし、それらを埋めさせる活動を行なった。空欄にする語(句)は、本文には書かれていながら概要を把握していれば必ず意味がわかるものを選んだり、前置詞や助動詞など生徒が苦手としている部分を中心に選んだりした。また、新出語を選んで音から文字へつなげる活動にすることも

あった。左図は、Unit3 で行った summary の例である。ここでも、教科書を開かせないで穴埋めをさせたため、生徒は黒板の絵を見ながら概要を考え、何度も文章を読み返して空欄を埋めなければならない。

Unit 3

E-pals in Asia ②

Class() No.() Name()

★ Summary ★

Sea is 17 and she lives in ().

The word *manga* comes () the Japanese language.

Hong Kong hosted the () Asian *Manga* Summit.

Many people talk () *manga* culture.

Manga () us about () cultures.

★ T or F ★

- ① Sea is a junior high school student.
- ② There was a *manga* summit in Hong Kong.
- ③ Sea tells about different cultures.

①	②	③
---	---	---

★ Q&A ★

- ① Where does Sea live?

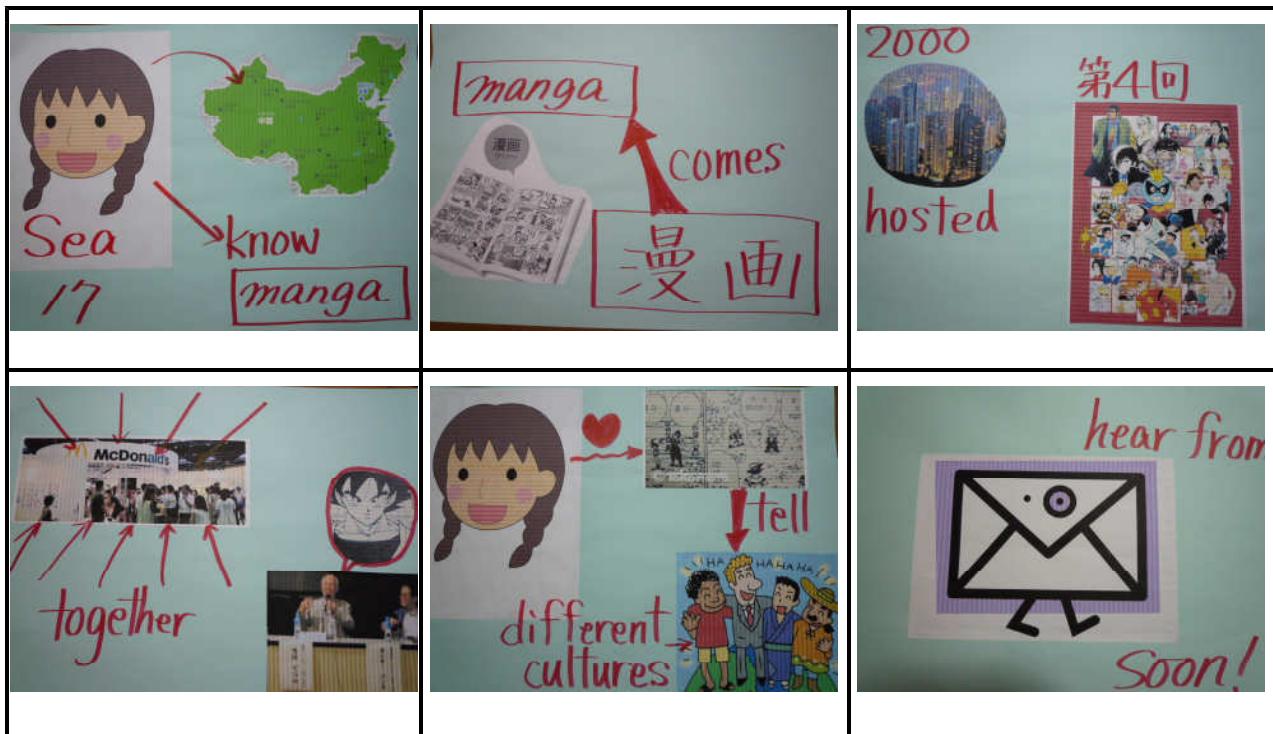
- ② Does she know the word *manga*?

- ③ Where did they have the fourth Asian *Manga* Summit?

- ④ What can *manga* tell us?

【資料】教科書指導 ワークシート(裏)

①絵を見て、Reproduction してみよう！



② Writing に挑戦してみよう！

私はシーです。私は 17 才で、 中国に住んでいます。	
「マンガ」という言葉は知っています。 それは日本語から来た物です。	
2000 年に、香港が第 4 回アジア ・マンガサミットを主催しました。	
多くの人々が、マンガ文化を語るために集まりました。	
私はマンガが好きです。	
それは私たちに異文化について 教えてくれます。	
あなたたちからのメールを待つ ています。	

③ 音読活動の工夫

ア 導入時のbackward reading

長い文の読みを chorus で行っていて、途中から読みがバラついてくるような時に行う活動。例えば、 In 2000 Hong Kong hosted the fourth Asian Manga Summit.という文であれば、

- a) Manga Summit
- b) Asian Manga Summit
- c) the fourth Asian Manga Summit
- d) Hong Kong hosted the fourth Asian Manga Summit
- e) In 2000 Hong Kong hosted the fourth Asian Manga Summit.

のようにリピートしていく。これにより、文末の語句を繰り返し読むことになり、最後まできちんとと言えるようになる。教科書を開本しているときに主に使っている。

イ 十分な内容理解後のread and look up

内容を理解し、ある程度教科書本文が言えるようになってから開本し、音と文字をつなげさせる。read and look up では、一文ずつ本文を覚えてから、顔を上げて読みを行うようにする。ここでは、意味のまとまりを考えながら本文を言うようにすることが大切である。読むときに本文を見ることができないため、読むときの集中力が増していると感じる。また、1文ずつなので英語が苦手な生徒にとっても抵抗が少なく、1回ごとに達成感があると考える。

ウ reproductionにつなげるresponse reading

教科書を開本した状態で、CDや教員の音読を聞き、音読が途中で休止したら、生徒はその続きを文の終わりまで言う。言い終わったら続きを音読を聞き、また途中で休止したら続きを読む。その単元で学習する言語事項を用いている文章では、積極的に休止を入れるようにすると、学習した言語材料の確認の場になる。

エ リレー形式のindividual reading

個人で本文を読む時には、一回通り読んだら列の前の席に移動する。最前列で読み終わったときは、最後尾に移動する。こうして一回読むごとに座席を移動し、自分の席に戻るまでくり返す。列ごとの競争にすると、生徒は意欲的にとりくみ、時間も短くてすむ。開始前に不明な単語の読みについては確認するようにしておくと、きちんと読むようになる。

オ 3秒ルールのつなげreading

生徒は本文のどこでもいいので、一文挙手をして読む。ただし、3秒以内に誰かが手を挙げて、次の文の読みを行わなければならない。また、一人一度しか読むことができない。全員が読みに参加すること、本文の最後まで読み切ることが条件となっている。簡単な文だからと、一度に多くの生徒がそこで挙手をすると、本文の最後までたどり着く前に全員読み終えてしまうため、スリルがあり、楽しく reading ができる。

カ つなげpair reading

ペアで読みを順番に行っていく。交代する場所は、文のどこでもよい。交代して欲しいときは机をたたいて知らせる。間を開けずに読むように指示すると、ペアの読みを集中して聞くようになる。

④ reproductionまでもつていく教科書指導

reproduction とは、教科書で読んだ本文のストーリーを、教科書やノートを見ないで自分の英語で再生していく活動である。音読で取り入れた語彙や構文などの知識を実際に使用することで、知識が intake されると考え、とりくんぐみた。ここでは、十分に内容を理解させることとともに、生徒がストーリーの流れを思い出しやすくするために、明確なヒントを与えることを配慮した。reproduction した内容は、隣の人に聞いてもらつて確認したり、ボイスレコーダーに録音して自分で確認させたりした。



授業で用いたピクチャーカードを廊下に掲示し、いつでも復習ができるようにしておいた。教科書学習は、一度終わってしまった単元には二度と戻らないのが普通であるが、これによって、内容理解後も語彙や文構造に目を向ける機会を増やすことができた。

reproductionまでもつていくreading指導●

【開本したまま】

- ①PC+keywordsでoral introduction …概要把握が目的。簡単に。
- ②内容に関する日本語でのQ&A …内容に関するQ&A。
- ③flash cardで新出語(句)の確認 …概要から意味を予測させる。
- ④一文ずつ本文のrepeat …文法事項のポイントなどもおさえる。
- ⑤reproduction …ピクチャーカードを見て、教科書本文を再生。読みはペアで確認。分からぬ所はヒント。

【ワークシート】

- ①summaryを見て空欄を埋める …綴りが分からぬ單語は予測。
- ②T or F, Q&Aをおこなう … 基本的には開本しておこなう。分からぬ場合は開本してよい。綴りが分からぬ單語は予測。
- ③本文writingをおこなう … 開本しておこなう。終了したら、開本して綴りチェック。

reproduction までもつていくために行った reading 指導の流れは右上図の通りである。

また、セクションごとのワークシートには、必ず黒板に貼った絵と同じものを用意した。これにより、家庭での自主学習時に絵を見て文を再生する練習ができるようにした。さらに、単元が終わったところで



(3) 教科書の本文理解後の活動

少しでも生徒の頭の中に本文を記憶させておくためには、繰り返し本文に触れさせることが重要だと考えた。そこで、生徒が意欲的かつ自然に、本文に繰り返し触れる活動を考え、実践してきた。

① 本文を読んで、不明確なことについて質問をするactive reading

- Ming: You went to the Great Wall, didn't you?
Kumi: Yes, I did. It was huge.
Ming: Well, have you ever seen this?
Kumi: No, I haven't. What is it?
Ming: It's a photo of the Great Wall from space.
Kumi: Wow. I was surprised at its size.
I've never seen such a long wall.



教科書本文は、生徒が効率よく学習できるように作られており、文の量にも配慮されているため、内容が曖昧なことが多くある。そこで、本文の内容理解を図った上で、不明確なことや知りたいことについて質問させる活動をおこなった。これにより、場面をよく考え、不自然なところやはつきりしないところを読み取ろうとすることができた。左図の課では、「なぜ Ming は、Kumi が万里の長城に行ったことを知っているのか?」や、「いつの間にこんな写真を用意したのか?」

「Ming は Kumi のことが好きなのか?」などの疑問が挙げられ、全体で考えた質問を出し合う中で、楽しく活動することができた。

- Ming: You went to the Great Wall, didn't you?
Why do you know that? Where do you know that?
Who do you hear that? What time is it now?
When do you know that? Do you like Great Wall?
Why do you talk about it?
Kumi: Yes, I did. I was surprised at its size. It was huge.
How have you feel about his question?

② 本文に関する質問を生徒が作成するmake questions

本文を読んだ後、① Yes-No question, ② Wh-question ③本文に答えがない question の3種類の質問を生徒自身に作らせる活動を行った。作った後は、小集団(4人組)でお互いに質問を出し合った。③を作らせたことで、"Why did the master say, "The pot is full of poison."?"のような、"between the lines" question や"beyond the lines" question を作ることもできた。疑問文の作り方がよくわからない生徒は、教員や友だちからアドバイスを受けながらすすめた。質問に答えるためにも、互いに文法チェックを自然に行うようになった。

Master : I'm going away for two days.

An : Yes, master.

Master : See that pot? It's very important. Watch it.

Chin : Yes, master.

Master : But don't touch it. It's full of poison.

Kan : Poison? Poison!

Master : Yes. Poison. Don't look into it either.

An, Kan : No, master. We'll be very, very careful.

Master : Good. I'll see you in two days. Goodbye.



★ Let's Make Your Original Question ★ ~ Questionを自作してみよう! ~

① Yes-No Questions

- ① Does the master say, "Don't touch the pot."?
- ② Do An, Chin and Kan eat the honey?
- ③ Does Chin say "Soon we'll die."?

② Wh-Questions

- ① Who knocked over the pot?
- ② Why didn't An, Chin and Kan die?
- ③ What was in the pot?

③ 直接本文に答えがない Questions

- ① Why did the master say, "The pot is full of poison."
- ② Why did Kan think it's honey?
- ③ Where did the master go away?

Let's Answer Your Friends' Questions

- | |
|-------------------------|
| ① Yes-No Questions |
| ① No, he isn't. → ひこうさん |
| ② Yes, he is. → かがりちゃん |

③ 本文の内容の続きを考えて、original storyを作成する活動

② Ratna : Those cages are so small.
Ken : Yes. The large animals need more space.
Will they go back to the wild?
Ratna : No, they won't. Many animals have no homes in the wild.
Ken : What do you mean?
Ratna : Their homes and forests are disappearing. So they can't survive.

本文の内容理解が一通り終わったところで、登場人物である Ken と Ratna が2人で歩いている絵を提示し、"They had a date. By the way, what do you usually talk on a date?"と質問し、本文の不自然さに気づかせた。よく考えると、せっかくのデートだというのに会話を楽しんでいる様子は見られず、動物愛護の話に真剣になっているのである。これに気づかせた後、本文の前の部分「デートに誘う場面」、「デート中の会話」、「デートの後の場面」のいずれかについて考えさせ、original story を作成する活動を行った。生徒たちは、教科書の他の登場人物も登場させながら、ユーモラスな文章を作成することができた。作成した後は、相互に読み合って投票を行い、5 Best Stories を決定した。生徒の中には、単元終了後の自主学習として、さらに続きのストーリーを作成する生徒もでてきた。

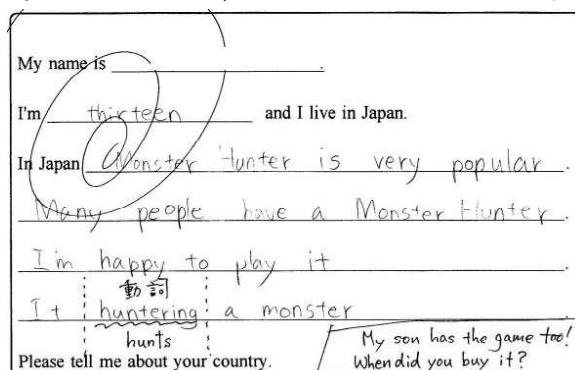
Kumi's birthday story part 8
久美と健太 × えこひん
Ming & Paul & Emma : Stop!! (They separated Ken from Kumi)
Ken : Ouch!
Emma : Sorry, Ken! But it is for you!
Ming & Paul : Kumi... Are you all right?
Kumi : Yes... why do you ask me?
Ming : If your mouth get dirty, what shall I do? I think it.
Kumi : Ken isn't such a dirty man...
Ming : I, I don't think so! He is my best friend!

(4) 教科書の単元終了後のまとめの活動

せっかく教科書本文を intake するところまで学習しても、学んだことを output する機会がなければ、生徒は教科書を学習する有用性を見いだせない。自分の言いたいことや伝えたいことを表現する時に、教科書で学んだ表現を自然に用いることができれば、次の教科書学習を行う時のモチベーション向上させることになると考える。

① テーマに沿ったstoryを作成する活動

左図は、日本ではやっていることについて紹介のメールを書く活動で、生徒が書いた文章である。はやっている内容としては、「せっかくだから、自分の好きなテーマで書いてみよう」と指示し、芸能、スポーツ、ニュースなどのジャンルを提示し、辞書のみを使って個人作業で英文を作成させた。提出された物には、必ず内容に関するコメントを書いて返却するようにした。また、辞書で調べた単語については、words list に記入させるようにし、自分が興味をもっている内容について表現したい時には、いつでも振り返って参考にすることができるようにしておいた。



★ Words List ★

English	Japanese
Monster	怪物
Hunter	狩人

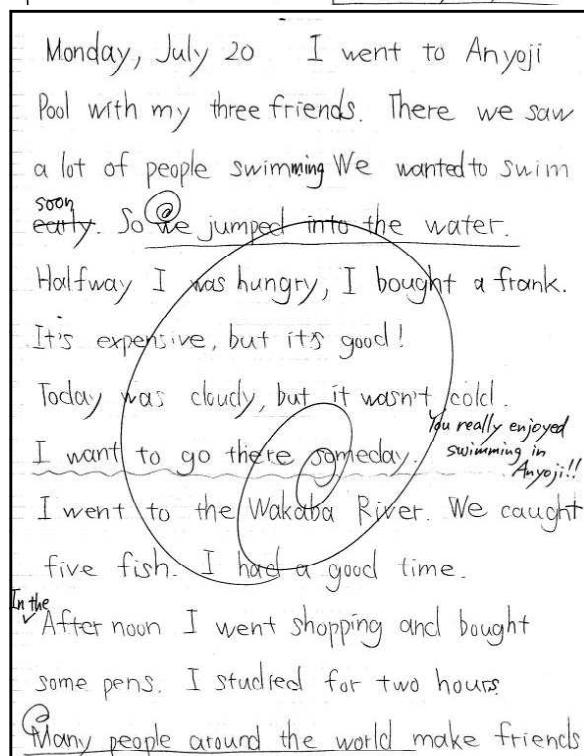
② 自学ノートでの英作文・日記の奨励

毎日の自学ノートでは、学習内容として

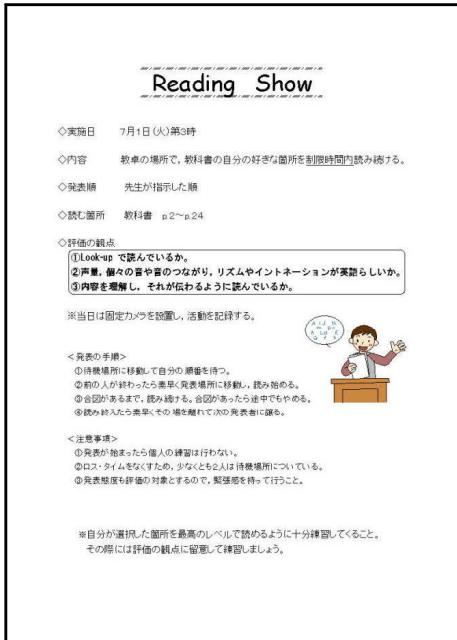
- ①単語や句動詞、慣用表現の徹底練習
- ②教科書本文のリプロダクション練習
- ③英語ワークの練習 をあげているが、チャレンジしたい生徒には、英文日記を書かせるようにしている。
(資料7)は、ある生徒が書いた英文日記である。この日記を書いた7/20の時点で、教科書学習は Unit3 をちょうど終えたところであるが、いくつかの文章で、教科書で過去に学んだ文章を上手く用いて表現していることがわかる。4行目で用いられている、

"So we jumped into the water."は、Unit1で学んだ、 "Rio jumped into the water, too."(p.6. 1.4~5) をうまく利用している。

このように、自分の言いたいことにうまく教科書の文章を用いることができたものは、授業の中で紹介し、教科書を身近な手本として感じさせるようにしている。



③ 聴き手を意識して本文を読むreading show



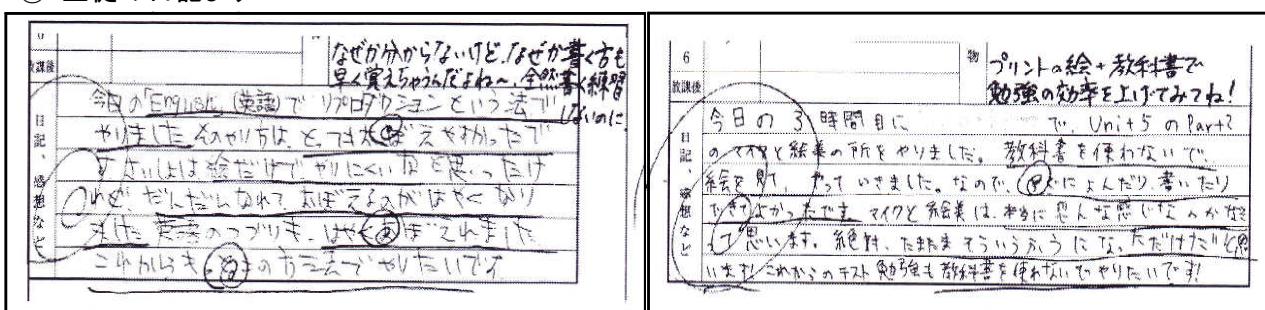
Kellerman(1985)のU-shaped developmentで主張されているとおり、教科書本文の言語データ運用力を高めるためには、繰り返しその本文に触れることが必要である。自主学習で触れさせることはその1つの例であるが、そのきっかけの1つとして、学期に一度reading showを行っている。これは、学習済みの単元の中から1ページを自由に選択させ、声の大きさ、速さ、イントネーション、音の明瞭さなどに注意して聴き手を意識し、productiveに本文を読む活動である。左図、実際に生徒に配布した文書である。

一人あたりの制限時間は30秒間。発表者のすぐ隣に2人ほど待機生徒として準備させておき、間をおかずにつづいて自分が決めたページを読んでいく。評価の観点の第1は「look-upで読んでいるか」とし、聴き手を意識して本文を読むようにさせた。活動の様子はビデオに記録し、良かった生徒の発表は次の学年の生徒向けに残すようにしている。また、聴き手は各項目についてABCの3段階で発表者の評価を行った。

4 まとめ

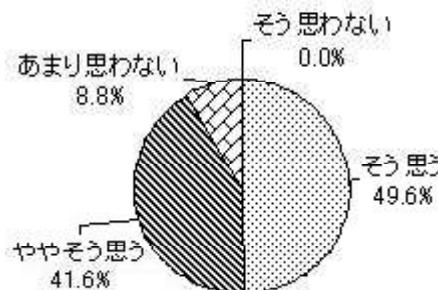
(1) リプロダクションまでもっていく過程に関する意識調査とその分析

① 生徒の日記より

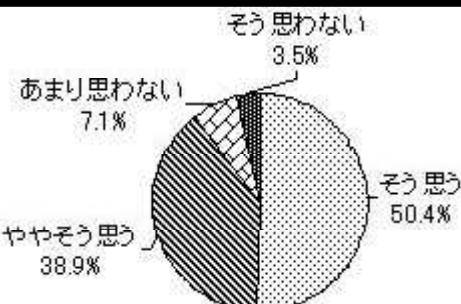


② 内容理解を深める活動についての意識調査

Q1:【口頭で導入したことにより 内容が理解しやすくなった】

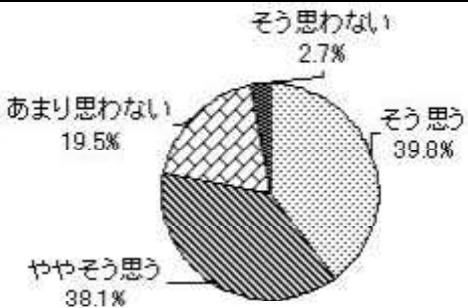


Q2:【T-F Question, Q&Aにより 内容が理解しやすくなった】

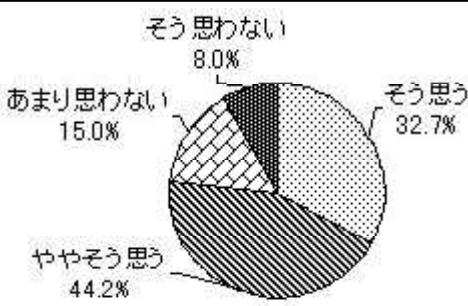


③ リプロダクションに至るまでの活動について

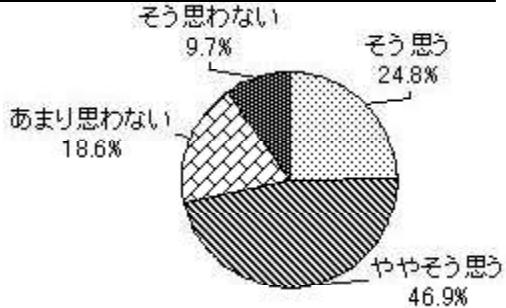
Q3:【本文summaryの穴埋めをしたこと
は、リプロダクションに有効だった】



Q5:【response readingは、リプロダクションに有効だった】



Q4:【read and look-up方式の読みは、リプロダクションに有効だった】



②について、意識調査の結果、以下の活動が有効であると言える。

教科書本文の導入では、教科書を一切使わず、教師の話す英文とpicture cardを用いる。新出語は話の概要や教師の言い換えから類推させる。

この導入方法をとれば、内容理解が深まると回答した生徒は、9割以上となった。

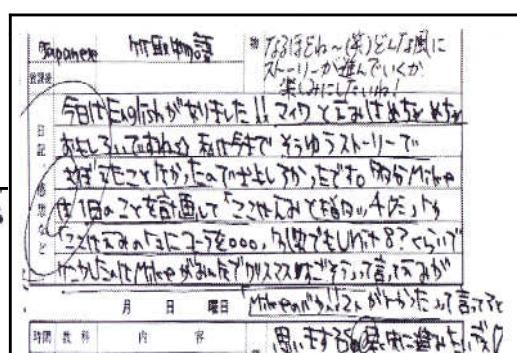
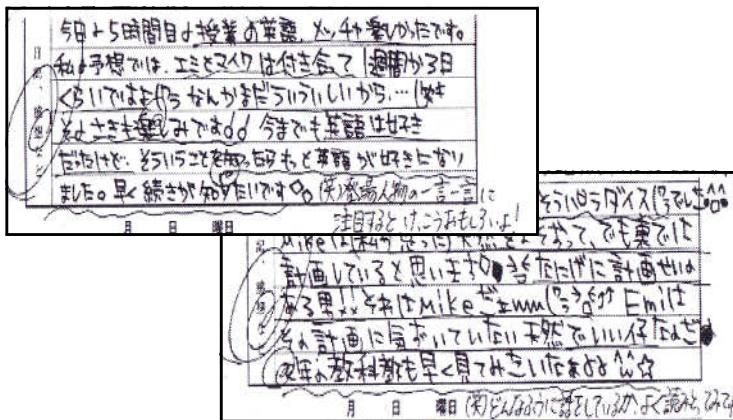
続いて、T or F や Q&A でさらに内容理解が深まる回答した生徒は9割近くであった。

③について、本文 summary の穴埋めは、7割弱

の生徒にとって有効であった。また、教科書 reading の方法についても、read and look-up 方式の読みをしてから response reading を行えば、リプロダクションしやすくなる生徒の人数が増えていることがわかる。しかし、②の質問項目に比べると有効であると答えた生徒の割合が 2 割近く減っていることから、内容理解後の repeat などの活動をより工夫していく必要があると考えられる。分析から、以下のことが言える。

・reproductionまでもっていくreading指導を行えば、頭の中に多くの生言語データを残せるが、開本してreadingを行う前に、本文理解(内容・英文)が深まっていることが重要である。

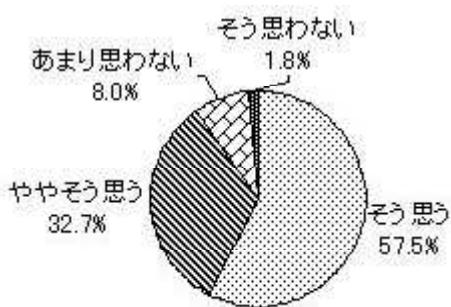
④ 内容理解後の活動に関する生徒の日記



内容理解後に、登場人物たちの続きのストーリーを考える活動を行ったところ、生徒たちは教科書に対して「早く先を読みたい」「2年の教科書も読みたい」などの感想をもつことができた。主体的に学ぶ生徒を育てていくためにも、このように生徒が意欲的に取り組める活動を設定していくことが、大変重要であると感じた。

(2) 成果と今後の課題

Q6:【リプロダクションは、教科書の内容を身に付けるために有効であった】



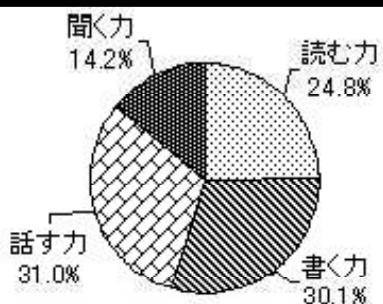
リプロダクションまでもつていく教科書指導を行い始めた当初、生徒からは「教科書の内容がわかりやすくなった。」「本文がスラスラ言える(書ける)ようになった。」などの意見が聞かれた。左図にあるように、生徒への意識調査を見ても、9割以上の生徒がリプロダクションを行うことで、教科書の内容を効果的に身に付けたと感じることができた。

また、本研究では教科書指導を工夫することで、4技能をバランスよく育てることができ、発信型の活動（スピーチ、英作文）において、より生かされるのではないかと考えた。

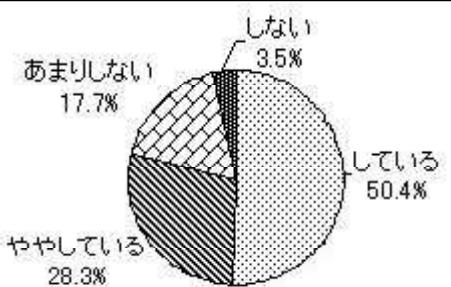
Q 7 の図は、意識調査の中で生徒に質問したアンケートの結果である。4技能のうちいずれかのみに偏ることなく、ある程度のバランスがとれていることがわかる。特に、

「書く力」「話す力」などの【表現する能力】を育てるためには、リプロダクションまでもつてくre-ading指導は有効である。

Q7:【reproductionによって、どの力が伸びたと思うか】



Q8:【英作文や対話などの表現活動で、教科書の文を参考にしているか】



と、生徒たちが感じていることがわかった。

それは、Q 8 の図を見てもわかるとおり、多くの生徒にとって表現活動を行う時の拠り所として、教科書の文章を参考にすることが有効であるからである。

しかし一方で、発信型の活動を支える上で重要な、「good listener」の育成のため、「読む力」「聞く力」などの【理解する能力】をさらに伸ばしていく努力が必要だと感じた。

また、コミュニケーションを通して他者との相互理解を深めようとする意欲、態度面も重要であるため、様々な対話活動などとのつながりを深め、人とのかかわりを大切にし、自他の良さを互いに認め合う生徒を育成できるよう、研究を深めていく必要があると感じた。